

令和 5 年 2 月 2 4 日(金)

1 5 : 0 0 ~ 1 6 : 3 0

令和 4 年度 第 3 回佐賀県立鹿島高等学校学校運営協議会
議事録

場 所：鹿島高等学校赤門学舎 会議室

参加者：＜委員 10 名＞（代理出席 1 名、オンライン参加 1 名を含む）

＜佐賀県 2 名＞教育振興課指導主事、高校魅力化アドバイザー

＜事務局 3 名＞赤門学舎副校長、大手門学舎副校長、主幹教諭

<会 順>

○ 開会 大手門学舎副校長（15：30～）

○ 会長挨拶

この会に先立って行われた、「鹿島さいこうプロジェクト・成果研究発表会」に参加をした。
地域と連携した教育活動が進められていることが、よく伝ってくる会であった。

本日は、SCSのこの1年間の取組みの成果と課題を確認し、次年度へ繋げる協議会としたい。

3 議 事

(1) 学校運営協議会報告（資料 P 1・2）

<報告> 副校長（大手門）

・資料訂正

第 1 回キャリア教育部会 日時 （誤） 6/16（木） （正） 6/15（水）

第 2 回キャリア教育部会 日時 （誤） 11/11（金） （正） 10/31（月）

第 3 回キャリア教育部会 日時 （誤） 11/21（金） （正） 11/14（月）

第 4 回キャリア教育部会 日時 （誤） 12/14（水） （正） 12/9（金）

・ご意見をいただき、より良い活動に繋げていきたい。

<意見交換>

副校長（赤門）：今年度は 2/2 に学校評価部会で学校評価についての会議を持ったが、次年度は計画や中間評価段階で、協議会全体での協議を行いたい。

(2) S A G A コラボレーション・スクール活動報告（資料 P 3～6）

<報告> 主幹教諭

・資料追記

「花ボラ」「戦没者追悼会」の参加者の欄に「PTA」

「牡丹餅会」の連携先の欄に「PTA」

・外部連携の取り組みは積極的に行っているが、特に大手門学舎は教科指導においても外部人材を活用した教育活動に取り組んでいる。

・成果と課題は、この会を通してさらに内容を深めていきたい。

<意見交換>

委員 A：鹿島市の活動に協力いただき感謝。

小中学校と連携したい団体は市役所に相談される。しかし、高校は県立なので、市役所を窓口として良いのかどうか悩まれている方も多。私が鹿島高校の学校運営協議会委員ということもあり、現在、窓口として相談されることも多いが、活動協力依頼などを投げかけてよいのか？

校長：バランスが必要で悩ましいところ。高校生の無償労働奉仕の場になることは避けたい。ボランティア等の投げかけがあれば、手を挙げる余裕のある生徒は挙げる。とりあえず投げかけて。

委員 B：ボランティアを募る場合は、この活動を通して、こういう学びができますよ、という趣旨を説明することが大事。

副校長：「ボランティア証明書」の発行があれば、進路書類として活用できる場合もある。ボランティア生徒派遣は職員による引率が必要な場合もあり、働き方改革の中、難しい面があるのも事実。

委員 C：肥前浜宿水とまちなみの会が主催する、3月25・26日の花と酒まつり、鹿島酒蔵ツーリズムでは、鹿島のお酒とともに、鹿島高校商業科が企画開発したゆず空をセット販売する。鹿島の魅力を感じることができ、学びがあるこのイベントに、ぜひスタッフとして高校生の参加を検討してほしい。

(3) 令和4年度学校評価報告（資料 P7）

<報告>副校長（赤門）

- ・「学力の向上」の項目のうち、受験結果等の数値の空いているところは、結果判明後報告。
- ・学校評価部会で私立大学の指標を設けても良いのではないかと、との意見が出た。来年度に向けて話し合いたい
- ・いじめアンケートによる覚知を3件から4件に修正。
- ・いじめアンケートは現在年間5回実施している。実施回数が多すぎると形骸化するのは、という懸念もあるが、抑止力としてはたらくことを考え、次年度も同様に実施したい。
- ・相談しやすい環境づくりに今後も努めていく。
- ・健康づくり 家庭との協働のもと指標をつくりたい。
- ・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」の項目の10日以上の取得者は73.8%に修正。
- ・CSについては、今年やってみてよかったところなどを検証しながら計画をたてる。

<意見交換>

会長：高校魅力化評価アンケートも、来年度は学校評価に反映することもできるのでは。

副校長：検討する。

(4) その他

ア 高校魅力化評価アンケート（抜粋版）について（資料 P8）

<報告>副校長（大手門）

- ・前回の協議会において本校の課題として取り上げた項目を抜粋して生徒対象にアンケートを行った。
- ・各項目において7月の結果より2月で肯定的意見の割合が増えたのは、地域連携事業や旭ヶ岡キャリア塾などの成果ではないだろうか。

<意見交換>

委員A：他地域との差、とあるが、他地域とはどこを指すのか？

アド：全国の結果との差になる。15,000以上の生徒のデータ結果。

委員B：他地域との差が小さくなった、ということは、だいぶ追いついてきたということ？

副校長：そのように見ることができる。

校長：「憧れている大人がいる」の項目の数値が大きく増えたのは旭ヶ岡キャリア塾の成果と言える。今年度の高校入試の志願状況においても、西部地区の普通科高校が苦戦している中で、鹿島は健闘。商業科・食調科の志願状況も他校と比べて善戦。

委員B：旭ヶ岡キャリア塾の中学校の手ごたえは？

委員D：当日は授業時間の関係上、ライブでは見ることができなかった。各クラスでの視聴を促している。28日まで視聴可能なので、再度連絡する。

副校長：中学校からの配信希望であったので、再度確認をお願いしたい。期間延長は可能か？

委員B：可能ではあるが、指定されたタイミングでどれだけ見てくれたかを確認し、次年度以降の配信形態の参考にしたい。ぜひ、配信結果の後追いをしたい。

委員E：「自分の学校を中学生に勧めることができる」の項目で3年生が10ポイントも上がった理由は？

校長：2月には、進路が決定したり、また、その指導に熱が入ったりしてくるのも一因。

委員B：7月は迷いに迷っている段階だから、数値が低かったのかも知れない。毎年評価をとっていけば、そのあたりのことも見えてくるかもしれない。

副校長：データをとることの大事さを感じる。

イ 旭ヶ岡キャリア塾 Stage 1 振り返り

校長：・キャリア教育部会には大車輪の活躍をしてくれた。

- ・配信にも尽力いただきありがたかった。
- ・教育振興課も資金面等、援助いただき感謝する。
- ・講師の方からも、保護者から感謝のメールを受けた、との報告を受けた。
- ・生徒の感想を見て、伝えたかったことが、うまく伝わっていなかったことを知った講師の方が、丁寧にフォローを入れてくれたなどの話も聞いた。とてもありがたい。

委員B：生徒からの感想を見て、生徒の受け取り方は多様だと感じた。こちらが意図していない受け取り方をされることもある。伝え方の難しさを感じた。

会長：生徒のアンケート結果を次回でもよいので全体で共有できればありがたい。

委員B：他の講師さんの講話もせっかくだからお話をしてくれているので聞きたい。

委員E：卒業生なのに自分には声がかかっていない、次の機会ではぜひ自分にも声をかけてほしい、との声が聞かれた。こうやって輪はひろがると感じた。

委員F：知事もⅡ部も含め、この取り組みに感心されていた。

校長：小さい規模でもよいので、継続してやっていく。同じような取り組みをするわけではない。いろいろな取り組みをキャリア教育部会でやっていきたい。

委員B：これから入ってくる生徒たちを育てていく仕組みを。あの時に入った子たちはよかったよね、という形にはせず、活動を根付かせる。鹿島高校の取り組みを中学生や小学生に落とし込ませる。

委員E：登壇した講師同士のつながりをもつ機会を持ち、広げていくことが大事。私学や県外からの問い合わせも来た。SNSで発信していることもあり、あの取り組みはどのようにして実現したのか、との問い合わせがある。今回の取り組みは全国の中でも、第一人者的立ち位置となっている。

校長：問い合わせは校長に回して欲しい。なんでも答える。

委員G：子供たちがどういう人の話を聞きたい、というアンケートの上での実施？

校長：アンケート結果から子供たちの世界観が狭いことがわかった。世界を広げる講師を選んだ。まさに「知らんばはじまん」の精神でおこなった。

委員B：「将来、自分の住んでいる地域で働きたいと思う」の2年生の数値が減ったのは、旭ヶ岡キャリア塾 stage 1 のⅠ部を聞いて、世界に出て活躍したい、という志が高まった前向きな気持ちの表れではないだろうか。鹿島が嫌だから、という後ろ向きな意見ではなく、前向きな気持ちだと思いたい。

委員E：卒業生から「呼ばれたら行くよ」との声が多くあった。手弁当で東京からでも行く、とのこと。ありがたい。

委員B：帰省のタイミングとかで調整できるような計画を立てることができると良いのかもしれない。

その他

○鹿島市企業説明会について

委員A：鹿島市企業説明会を近隣の高校（鹿島・嬉野・佐賀農業）に声をかけて、特色選抜の日に実施している。大手門の2年生は全員参加してくれているが、普通科からの生徒参加は残念ながら無い。就職、ということは目の前ではないだろうが、将来的にという視点で参加をして欲しい。

副校長：この説明会が、高校卒業後の就職、というイメージがある。進学後に戻ってこよう、みたいなキャッチを書くのもよいのでは。大学進学後に鹿島に戻ってきたら返却しなくてよい奨学金がある、などの施策があると鹿島へのUターン率も上が

る可能性が見えてくる。

校 長：大学進学後に帰ってくる、という視点を持てるような取り組みが必要。

○次年度について

会 長：今年度をもって佐賀大学から他大学へ異動することとなり、会長職を辞することとなった。みなさんにはご迷惑をおかけするが、私にできることがあれば、かけつけるので、お声掛けいただきたい。1年間の感謝を申し上げる。

副校長：次年度の部会制や委員、規約についての検討を行いたい。

会 長：委員の任期は1年だが、再任も可能である旨、本校の規約にも反映いただきたい。

副校長：その点については了解した。

校 長：この他の部会制や委員、規約に関しては個別の状況など確認することが多い。学校側で別途検討する。

閉 会

会 長：旭ヶ岡キャリア塾は県内外から注目される取り組みとなった。今後も様々なアイデアを出し合いながら、より良い活動ができるような協議会となることを願っている。